



東北大学

平成 28 年 6 月 13 日

報道機関 各位

東北大学附属図書館

夏目漱石没後 100 年企画展
「漱石文庫～文豪が遺した創作の背景～」の開催
－蔵書・日記・ノート・原稿などのコレクションを一挙公開！－

<概要>

東北大学附属図書館では、夏目漱石没後 100 年にあたる平成 28 年、生誕 150 年にあたる平成 29 年の 2 年にわたり、漱石をテーマとした特別展示会を企画しております。平成 28 年 10 月からは、「漱石文庫～文豪が遺した創作の背景～」と題して、夏目漱石の旧蔵書等を特別公開いたします。

東京で創作活動をしていた漱石の蔵書が、昭和 19 年に、この東北の地に伝えられたのは、東北大学附属図書館の第 5 代館長で、漱石の愛弟子であった小宮豊隆 (1884-1966) の尽力によります。漱石の自宅である“漱石山房”があった早稲田南町は、昭和 20 年 3 月 10 日の東京大空襲で焼失してしまいましたが、それより以前に旧蔵書が仙台に移されたことにより、現代に継承することができました。

作家としては決して長くない 10 年間という創作活動の間に、数々の名作を世に送り出した文豪が、その生涯において、どのような書物を読み、創作の糧にしていたのかということを知ることができるよう、旧蔵書 3 千冊余りの中から選りすぐった資料を展示いたします。文豪夏目漱石の本棚がどのような書物で埋まっていたのか、当館でのみご覧いただける貴重な展示会となります。

また、企画展に先立ち、仙台市内青葉通地下道ギャラリーにおいて、9 月 2 日 (金) から 9 月 14 日 (水) の間、当企画展の PR 展示も行いますので、合わせてお楽しみいただければ幸いです。

つきましては、市民の皆様へ広く周知していただくとともに、ご取材の上、紙面、番組等で紹介していただきますようお願いいたします。ご取材に際しては下記問い合わせ先までご一報ください。

<開催日時及び会場>

日 時： 平成 28 年 10 月 3 日 (月) ～平成 28 年 11 月 11 日 (金) 10:00～17:00 (会期中無休)

会 場： 東北大学附属図書館多目的室 (仙台市青葉区川内 27-1、東北大学川内キャンパス)

入 場： 無料

※会場までは、公共交通機関をご利用願います。

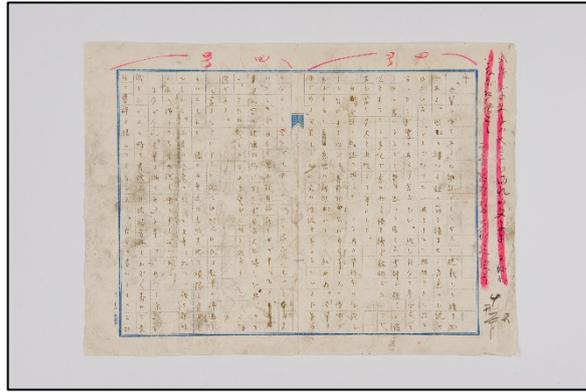
(お問い合わせ先)

東北大学附属図書館 担当：村上、福井

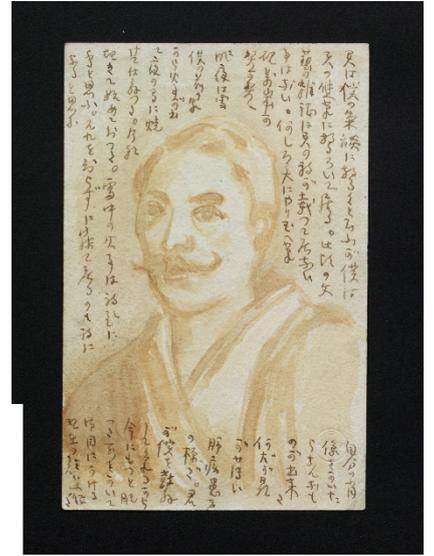
電話番号：022-795-5931, 5939

URL: <http://www.library.tohoku.ac.jp/>

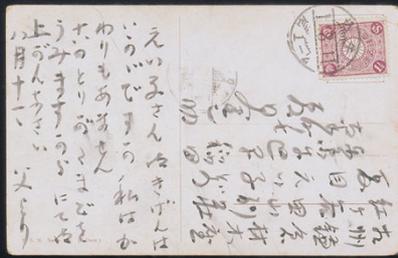
主な展示品



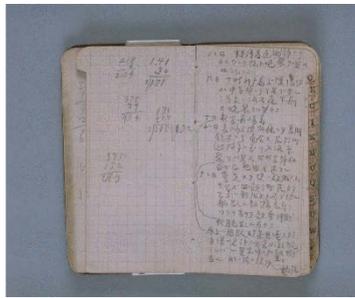
吾輩は猫である序文原稿



土井林吉（晩翠）宛て
漱石自画像入りはがき



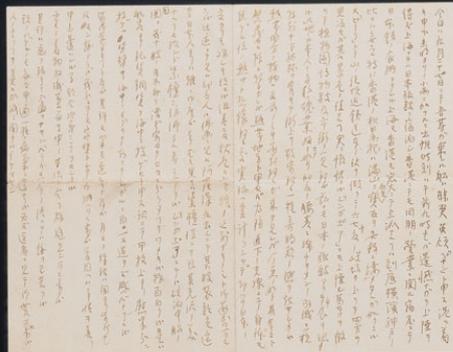
えい子（三女）宛てはがき



渡航日記



漱石筆オックスフォード大学水彩画



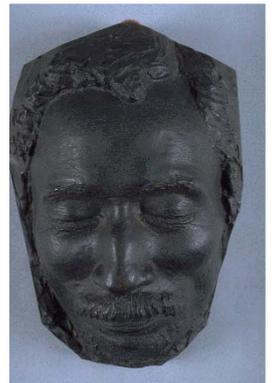
鏡子（妻）宛て書簡



金の貸付簿



漱石名刺入れ・漱石名刺



漱石デスマスク



TOHOKU UNIVERSITY

漱石自画像入りはがき 土井晩翠宛

平成28年度 東北大学附属図書館 企画展

夏目漱石 没後100年

漱石文庫

文豪が遺した創作の背景

—蔵書・日記・ノート・原稿などのコレクションを一挙公開!—

平成28年

10/3(月)~11/11(金)

土日祝も
開催

10:00~17:00 ●入場無料

東北大学附属図書館1階多目的室
仙台市青葉区川内27-1

■主催:東北大学附属図書館

Tel:022-795-5911(代表)

■協力:県立神奈川近代文学館/(公財)神奈川文学振興会、仙台文学館、日本近代文学館

■後援:NHK仙台放送局、河北新報社、KHB東日本放送、仙台市教育委員会、仙台放送、TBC東北放送、ミヤギテレビ

- 第1部 漱石の横顔
- 第2部 漱石の本棚
- 第3部 漱石の作品世界

アクセスMAP

- 地下鉄仙台駅より
地下鉄東西線「八木山動物公園」行きに乗車
- 「T03 川内駅」下車 南2出口より徒歩約5分
「T04 国際センター駅」下車 西1出口より徒歩約7分



漱石
没後100年

ごあいさつ

平成28年は、夏目漱石没後100年にあたり、来年平成29年は生誕150年となります。今回は没後100年の企画として、「漱石文庫－文豪が遺した創作の背景」と題し、東北大学附属図書館所蔵の貴重図書「漱石文庫」の特別公開を行います。

東京で創作活動をしていた漱石の蔵書は、現在この東北の地に伝えられ、東北大学附属図書館の貴重書庫で大切に保管されています。その約3,000冊にのぼる旧蔵書の魅力は、蔵書そのものに漱石自身の書き込みがあること、漱石の日記や手帳といったプライベートな資料が含まれていることであり、自筆の絵葉書やその他絵画等も見られることも特徴です。

10年間という作家としては決して長くない創作活動の間に、数々の名作を世に送り出した文豪が、その生涯においてどのような書物を読み、その創作の糧にしていたのかが垣間見えるよう、旧蔵書3,000冊余りの中から選りすぐった資料を展示いたします。

文豪夏目漱石の本棚がどのような書物で埋まっていたのか、当館でのみご覧いただくことができる貴重な展示会となります。この機会にぜひ、多くみなさまにご観覧いただきたく、ここ東北の仙台にてご来場をお待ちいたしております。

附属図書館長 植木俊哉

漱石文庫とは？

文豪夏目漱石(1867～1916)の旧蔵書3,068冊からなるコレクションである。英文学関係の図書が中心で、漱石による多くの書入れがある。また、漱石の日記、ノート、試験問題、原稿・草稿などの断片資料も含まれている。全体の量は、学者の蔵書として決して多いとは言えない。しかし書き入れや傍線は、蔵書全体の3割に及ぶという。漱石は骨董趣味など無く、自分が読むための本を集めたといわれており、世間的な貴重書・稀覯書は多いとは言えないが、そのほとんどが実際に漱石が手に取り読んだ本、読もうとした本である点が漱石文庫の特徴であろう。

漱石文庫が東北大学に譲渡されることになったのは、当時第5代目の図書館長で、漱石の愛弟子でもあった小宮豊隆(1884～1966)の尽力による。搬入は、昭和18年(1943)からはじまり、昭和19年3月に完了した。漱石山房があった早稲田南町は、昭和20年3月10日の大空襲で焼けてしまったため、この漱石研究の重要資料は、仙台に移されたことで現代に継承されたことになる。

漱石文庫は、当初は小宮館長の意向で同じく東北大学が所蔵する漱石の恩師ケーベルの文庫と並んで保管されていたが、その後の図書館移転等により、現在はその全体が東北大学川内キャンパスの附属図書館貴重書庫に納められている。